

国際学会（15th International Conference on Environmental Ergonomics; ICEE）活動報告書

I. 学会概要

1984年に始まり、今大会まで続いている学会。環境生理学と、人間工学を専門領域とする研究者を中心に、開催される。

II. 開催概要

共同主催：School of Physical Education, University of Otago, New Zealand

開催場所：Dunedin, New Zealand (サテライトミーティング)

Queenstown, New Zealand (本会)

日時：平成 25 年 2 月 7 日－9 日(サテライトミーティング)

11 日－15 日(本会)

筑波大学発表者

1)佐々木 洋輔 博士前期課程 人間総合科学研究科 体育学専攻 2 年 運動生理学西保研究室

セッション名：Water Immersion (oral 発表)

発表演題：Respiratory characteristics during submaximal eggbeater kick by water polo players

2)田原 麗衣 博士前期課程 人間総合科学研究科 体育学専攻 1 年 運動生理学西保研究室

セッション名：Thermoregulation: Blood flow & Ageing (oral 発表)

発表演題：Functions of the endothelial dilation and the reflex from skeletal muscle in badminton players are different between dominant and non-dominant arms

3)橋本 峻 博士前期課程 人間総合科学研究科 体育学専攻 1 年 運動生理学西保研究室

セッション名：Acute heat stress and adaptation (poster 発表)

発表演題：Effects of hyperventilation-induced hypocapnia on respiratory and metabolic responses and performance during high-intensity intermittent exercise

4)星 裕太 博士前期課程 人間総合科学研究科 体育学専攻 1 年 運動生理学西保研究室

セッション名：The brain in stressful environments (poster 発表)

発表演題：Effects of voluntary control of breathing on cerebral blood flow and ventilator mechanics during passive heating

Ⅲ. 大会概要

○サテライトミーティング

本会の前に行われたサテライトミーティングは、ダニーデンにあるオタゴ大学が会場となっており、各分野における著名な先生方がシンポジウムで最先端の研究について紹介した。また、最終日の9日には、cold stress/ immersion, heat stress, ultraendurance/field research, cardiovascular/cerebrovascular physiology の4つの分野に分かれ、ディスカッションが活発に行われた。そこでは、実際の実験風景を見学することもできた。

○本会

本大会は、比較的小さめのアットホームな会場で行われたため、学生もその分野の重鎮の先生方も、フランクに活発なディスカッションをすることができた。発表内容は多岐にわたる分野であったが、現場に則した内容が多く、応用研究の重要性を感じ大変興味深かった。

上記の各人の発表では、学生を対象とした賞において、田原麗衣がオーラル部門で第2位、星裕太がポスター部門で第1位を受賞したことをはじめ、オーラル発表でもポスター発表でも、発表内容に関する強い興味とそれに対する活発なディスカッション、また、高い評価を得ることができた。本大会を通して、国際学会で高い評価を得られたことは、今後の研究活動や英語でのコミュニケーションへの自信になった。また、重鎮の先生方との密なディスカッションや他の研究者の方々の発表は、今後の研究活動につながる、非常に有意義なものとなった。

○研究者間国際交流

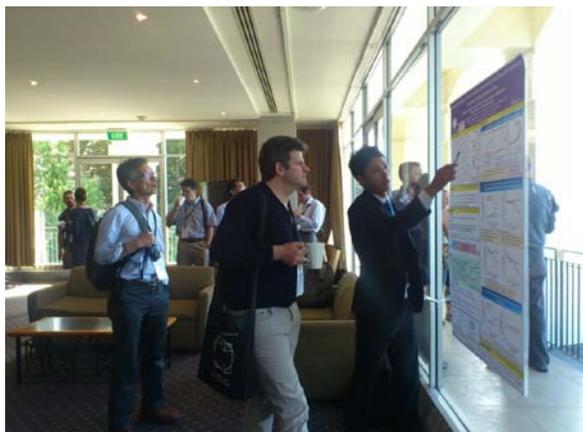
サテライトミーティングが行われたダニーデンから本会が行われたクイーンズタウンへの移動は、多くの参加者とともバスで移動し、ワインテイティングやランチなどニュージーランドの文化を味わうことができた。また、学会期間中を通して会食が多く催され、重鎮の先生方や他大学の院生と研究内容も含めた様々な話題を通し、コミュニケーションをとることができた。さらに、大会後には主催者であるオタゴ大学の主催のエクスカージョンにて参加者と登山やキャンプを行い、ハカ(マオリ族の踊り)やラグビーを見るなど、ニュージーランド固有の文化や自然に触れることができた。これらの活動を通して、海外の若手研究者らとの交流を深め、同じ分野で研究を遂行するよき仲間を得られたことで、より有意義な滞在となった。

・IV. 活動の様子

本会での口頭発表の様子



本会でのポスター発表の様子



大会最終日に、大会会場にて

